

吉野川に関する情報を幅広く発信する広報誌



Ourよしのがわ Vol.51

2022年11月号

事務所だより

- ・大規模災害に備え、演習を実施しました！
～令和4年度 大規模地震・津波を想定した緊急対策シミュレーション～
- ・防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況

連載

- ・コウノトリ・ツルでつながる阿波の国
- ・吉野川歴史探訪：明治から昭和はじめの砂防～その2 日本砂防の父、赤木正雄～

現場だより

- ・河川パトロールの仕事【吉野川鴨島出張所】
- ・「指定緊急避難場所」周知徹底の取組
- ・不法投棄等の撲滅に向けて夜間パトロールを実施しました



Ourよしのがわ
ウェブページ

銅山川の紅葉（愛媛県）



【連載】P1～

・コウノトリ・ツルでつながる阿波の国：戎井さんと行く脇町・舞中島取材ツアー

えびすい みらい しおた まさのり あまの しゆんじ
戎井 光来さん / 塩田 正則さん / 天野 俊二さん (案内図①、②)

・吉野川歴史探訪：明治から昭和はじめの砂防～その2 日本砂防の父、赤木正雄～

(案内図③、④)

【事務所だより】P9～

・大規模災害に備え、演習を実施しました！

～令和4年度 大規模地震・津波を想定した緊急対策シミュレーション～

・防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況(R4.10月末現在)



【現場だより】P14～

・河川パトロールの仕事【吉野川鴨島出張所】

・「指定緊急避難場所」周知徹底の取組

・不法投棄等の撲滅に向けて夜間パトロールを実施しました【河川占用調整課】



【特集】P19～

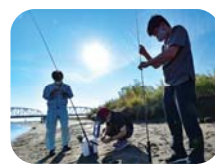
・クイズで振り返る「Ourよしのがわ」解答&解説

【ミニ情報発信室】P23

アソビバ！

【遊VIVA！吉野川】P24～

・吉野川河口で釣りに挑戦しました(案内図⑤)



【Twitterだより】P26

【吉野川Diary・編集後記】P27



表紙の写真：銅山川(愛媛県)

案内図



吉野川



コウノトリ・ツルでつながる阿波の国

To the future with the stork and crane

国土交通省では、吉野川流域において、河川整備と環境の調和として、コウノトリやツルの生息環境の保全を行っています。そして、そこに生きる人々がいきいきと暮らせる地域づくりに取り組んでいます。このコーナーでは、地域に輝く人々や旬な話題を紹介しています。

戎井さんと行く脇町・舞中島取材ツアー



脇町・うだつの町並み



舞中島



城の谷排水機場

※撮影時のみ、マスクを外しています。

『Ourよしのがわ』が前号で50号を迎えました。吉野川の魅力を伝え、河川事業について周知し、ご理解を深めていただくための広報誌として、さらに多くの方にご愛読いただけるよう新たな取組を進める中で、このコーナーでも次代を担う若者への吉野川の歴史や魅力を伝えることを目的とした取材を企画しました。

第1弾は、城東高校^{えびすい みらい}2年生の 戎井光来さん(左上写真、右下写真ともに右側)と一緒に、脇町(うだつの町並み、城の谷排水機場)・舞中島取材した『戎井さんと行く脇町・舞中島ツアー』をお届けします。

戎井さんは、防災士の資格を持ち、高校でも防災クラブに所属し、防災の周知や啓蒙の活動をしています。また、徳島市の防災サポーターをつとめ、大規模災害発生時は率先して住民を牽引するため、日頃から防災について学んでいることから、吉野川の洪水に関する歴史が学べる脇町・舞中島取材先に選びました。

※取材にあたっては、城東高校の許可を得て、学校の休日を利用し、新型コロナウイルス感染症対策に留意の上、実施しました。

脇町・うだつの町並みで歴史を訪ねて

取材のスタートは脇町・うだつの町並みを訪れ、脇町・うだつの町並みボランティアガイド連絡会会長の塩田正則さん（P1左上写真左）に『阿波藍』に関する歴史を教えてくださいました。

2019年には文化庁が『阿波藍』を日本遺産に認定したことで大きな話題となりましたが、その歴史は鎌倉時代に遡ります。1585年に豊臣秀吉から四国平定の功績で蜂須賀家政が阿波国を拝領し、その際に蜂須賀家の筆頭家老であった稲田植本が脇城に入城することで、戦国時代の戦いで焼けていた城下町を復興させました。月に数回、市を行い商人の出入りを自由にさせたことから、讃岐、伊予、備前などからも商人が集まり繁栄しました。また、吉野川の洪水がもたらした肥沃な土壌は、たくさんの肥料を必要とする藍作りに適していたため、収穫できる藍作を保護、奨励することで吉野川流域は日本最大の藍作地帯として発展し、脇町にも多くの藍作人や藍商人で賑わっていました。

『阿波藍』発展の歴史を支えてきたのが舟運です。列車や自動車がない時代では、大量の荷物を運ぶ手段は船でした。脇町が発展したのは、吉野川がすぐそばを流れ舟運に適していたことや、吉野川北岸の鳴門市から三好市池田を結ぶ撫養街道と、讃岐へと通じる塩江街道が交差する交通の要衝だったからといわれています。吉野川では、多くの荷物を載せた『平田船』が行き交っており、三好市から鳴門市までの下り便には、藍の染料となる薬や煙草、木炭などを2～3日で運び、上り便には塩や肥料、米、雑貨などを積み、引き船で1週間から10日かけて運んでいました。うだつの町並みには、『平田船』を利用した舟板壁など舟運が盛だった頃の面影が残されています。

このように歴史が深く江戸時代から昭和初期にかけての伝統的建造物が多く建ち並んでいる町並みを残そうと地域住民や行政が保存と活用に努めてきた結果、1988年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。



脇町・うだつの町並みへと続く『舟着き場公園』藍の集散地として多くの平田船が行き交う船着き場でした。



平田船（昭和初期頃）OurよしのがわVol.13「吉野川歴史探訪」より再掲。



平田船の船板の一部が舟板壁として現在も利用されています。

戎井さんコメント

吉野川と共生する人々の暮らしの姿がとても印象深かったです。日本三大暴れ川・四国三郎の猛威を受けつつも、その恵みを活かして藍作や運送を行い栄えた情緒ある町並み。SDGsの達成に向けても、大変参考になると感じました。



舞中島で洪水との闘いの歴史跡をめぐる

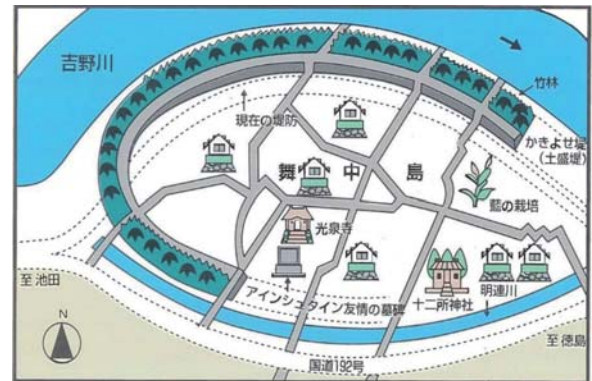
次に訪れた舞中島は、吉野川河口から約45km付近の吉野川と明連川に囲まれ、善入寺島、中島島とともに『吉野川三大川中島』と呼ばれています。南北0.8km東西2.7kmで面積が約170haあり、現在は約540世帯の人々が住んでいます。1977年に連続堤が整備されるまでは洪水との闘いの連続で、1701年の大洪水では、舞中島内の全戸が流出した記録が残されています。しかしその一方で、氾濫で堆積する肥沃な土が土壌を改良する役割を果たし、藩政時代には阿波藍の栽培、明治時代には養蚕業が繁盛していた記録も残されています。ここでは、洪水との闘いの歴史を物語る洪水遺跡を見学しました。

舞中島には、島を囲むように多くの竹林が植えられています。この竹林は、地下茎がからみあって繁茂することで洪水から川岸を守るための『水防竹林』として藩政時代からその役割を果たしてきました。

また島内には、洪水に備えて高い石積みの上に建てられている家屋もあります。1954年のジューン台風の時には、土台の石積みよりもさらに2m高く浸水しましたが、大部分は数時間の冠水で家屋の損害はわずかであったそうです。これも舞中島を囲む竹林と家屋が高い石積みの上にあったからだといわれています。

(Vol.22吉野川歴史探訪より)

最後に、光泉寺に残されている高地蔵を見学しました。この高地蔵は、1839年に連日の大雨で大洪水となり、土佐の御用木捨材780本あまりが吉野川に流出し、舞中島では大きな被害が発生しました。現在も地域の人々による供養が続けられています。この水害で命を失った方々を供養するために1841年に建立されました。台座が高い高地蔵は「お地蔵さんが洪水に浸かったり、流されては申し訳ない」という信仰心から作られ、現在も水害の教訓として語り継がれ、地域の人々により大切に守られています。



舞中島模式図。OurよしのがわVol.22「吉野川歴史探訪」より再掲。



洪水の被害を軽減させるために高い石垣の上に建てられている『城構えの家』。



光泉寺に残されている高地蔵。写真右は境内にある、1954年のジューン台風の冠水水位標柱。

戎井さんコメント

高く積み上げられた石垣や川沿い一面に植えられた水防竹林。水害から暮らしを守ろうとする人々の姿に感銘を受けました。また、水に沈まないようにされている高地蔵からも当時の人々の思いを感じ取ることができました。

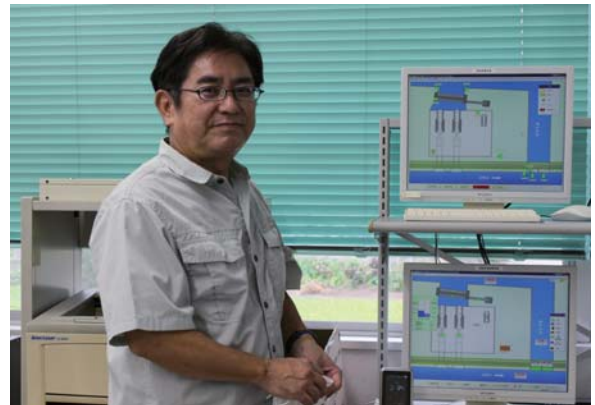


樋門操作で洪水からふるさとの命と暮らしを守る

最後は、徳島河川国道事務所美馬出張所を訪ね、城の谷排水機場の操作人の一人である天野俊二さんにお話を伺いました。天野さんたち操作人の主な仕事は、台風や大雨による出水を防ぐことで、樋門の開閉操作と排水ポンプの操作の2つに大別できます。

樋門の扉は通常時は開いていて、堤内(堤防によって守られている、普段私たちが生活している場所)に降った雨水や生活排水を川に流す役割があります。ところが、台風や大雨によって吉野川の水位が高くなった場合、樋門を開けたままにしておくと、逆流(吉野川の水が堤内に流れ込む現象)が起きてしまいます。そうならないように、操作人は樋門や排水機場に出勤し、樋門の閉鎖や水位の観測等、様々な作業を行います。樋門の開閉には基準の水位があり、吉野川の水位は徳島河川国道事務所の美馬出張所のシステムで確認することができます。そして、遠隔操作のマイクを通じて樋門操作室に情報を伝えることで、適切に操作ができるようになっています。しかし、樋門の閉鎖により堤内の水が吉野川に排水できず、堤内が浸水する内水氾濫が発生する恐れがあります。それを防ぐため、排水機場には排水ポンプが設置されていて、堤内の水を吉野川に排水できるようになっています。

天野さんは多くの洪水に遭遇してきましたが、中でも平成16年の台風23号は今でも忘れることのない出来事だと言います。この台風によって、吉野川は観測史上最大級の洪水に見舞われ、池田地点や岩津地点では危険水位を超え、吉野川すべての観測地点で警戒水位を超えました。脇町地区でも、市街地を始め、多くの浸水被害が出ました。「怖かったな。あの時は」と当時の振りかえる天野さん。



担当する徳島河川国道事務所美馬出張所からの信頼も厚い、天野俊二さん。31年間、城の谷樋門の操作人をつとめています。



徳島河川国道事務所管内には、17の排水機場があり、脇町・うだつの町並みの目の前にある城の谷排水機場は、その最西部に位置しています。



吉野川の水位は、徳島河川国道事務所美馬出張所のコンピューターで管理されています。

吉野川の水は真っ黒で、ゴォーとすごい音をたてて、天野さんの足元近くまで迫ってきたそうです。その水は大きく波打ち、高水敷のグラウンドにあったサッカーのゴールネットまでもが流されたそうです。近年、吉野川では当時のような洪水は起こっていませんが、天野さんは「自然を過信してはいけないと思います。今の地球環境では何が起るかわからない。想定外のことが起こっています」と言います。

実は、天野さんのお父様も樋門操作人でした。親子2代で長年樋門操作人をつとめていることについて「まあ、生まれたところやけんな。皆の役にたてたらいいなと思います。あんまり深く考えてないんよ」と謙遜する天野さん。しかし、その静かな語り口からは『ふるさとを守る』という強い使命感が伝わってきました。戎井さんもその思いを感じ取ったのか、最後に「今日はありがとうございました。僕も地元で防災活動をしていて、その活動のスローガンの中に『ふるさとを好きになれ』という言葉があります。天野さんのお話を聞いて、その言葉を再認識しました」と挨拶していました。

徳島河川国道事務所管内には101の直轄樋門があり、84の樋門に151人の樋門操作人が任命されています。通常5月から10月は月2回、11月から4月は月1回の樋門点検を実施していますが、台風や大雨の時は、昼夜問わず暴風雨でも出勤しなくてはならない危険と隣合わせの仕事で、洪水時は何日も家に帰れないこともあります。

国土交通省では、水圧で樋門を自動開閉できる『無動力化樋門』の導入を進めていますが、背後地及び費用の面から、現在導入しているのは17樋門となっています。私たちの日々の暮らしや安全が樋門操作人によって守られていること、自然を過信せず、防災対策をすることを、今一度肝に命じた出会いとなりました。



城の谷排水樋門。樋門を閉める時は、扉の中の部屋に入り、外の赤いランプを点灯させ、誰が見てもわかる状態にします。操作する部屋(屋根)がない時代もあり、ずぶ濡れで作業していたこともあったそうです。



城の谷樋門付近。(2004年10月20日台風23号の様子)

戎井さんコメント

「地域住民の命を守る」という使命感の下、三十年以上も樋門操作人をされているとのこと
で、敬服の念に堪えません。天野さんをはじめたくさんの方の力で私たちの生活が守られているのだということを改めて実感しました。



樋門点検に関する内容は、「Ourよしのがわ」Vol.12「吉野川講座(そうだったのか!? 河川管理～樋門点検編～)」で紹介しています。



吉野川歴史探訪 明治から昭和はじめの砂防

～その2 日本砂防の父、赤木正雄～

お疲れ様です。別宮川三郎です。9月下旬の台風14号は、大型で勢力を保ったまま四国を縦断し各地で暴風を伴う大雨となりました。この影響により、吉野川流域においても9月17日3時から9月20日6時までの池田ダム上流域の平均雨量は371mmを記録しましたが、吉野川のダム群では、穴内川ダム等の事前放流や早明浦ダム・富郷ダムによる洪水調節等により、池田ダム下流（三好大橋付近）の河川水位を約1m低減させる大きな治水効果を発揮し、吉野川からの氾濫による水害はギリギリありませんでした。台風14号は施設の整備効果で水害を回避できましたが、施設能力を超える洪水が発生することを前提に正しく知って備えておくことが大切です。

さて、今回は明治中期の国による砂防事業の始まりと中止の経緯について探訪しました。

今回は、明治末期より吉野川第1期改修工事の起工に合わせて再開された砂防事業について、吉野川百年史、吉野川（毎日新聞社編）、砂防一路などから探訪しましょう。

1. 国による砂防事業の再開 ～デ・レーケから赤木正雄へ～

デ・レーケの現地調査や茶園嶽の大崩壊を契機として、明治中期に始まった国による砂防事業は、下流の河川改修工事を「人民の希望により」中止したため、砂防事業も美馬郡の曾江谷川、大谷川、井口谷川、高瀬谷川のみで限定的に行われ、明治22年に中断するに至りました。

その後は、内務省施工の既設構造物の維持修繕工事を県で実施していましたが、明治33年に高瀬谷川で国が施工した砂防ダムの上流右岸が前年の洪水で浸食されたため、単独県費をもって護岸工事を施工したのが、県による砂防事業の始まりとなりました。続いて、明治34年には曾江谷川流域で護岸工事を実施し、明治36年には国庫補助を得た県営工事が始まり曾江谷の茶園嶽崩壊地に山腹工と護岸工を実施しました。

国による砂防事業は中断していましたが、明治40年の吉野川第一期改修工事の起工に伴い砂防事業の必要性が高まり、大正4年に東京帝大を卒業して間もない青年技師である赤木正雄氏(写真1)を吉野川に迎えて、国による砂防事業は再開され、大正4年から9年まで6ヶ年の溪流砂防工事として、下流北岸地域にある曾江谷川と日開谷川の下流扇状地部で床固工を中心とした事業(写真3、4)が実施されました。(図1) この2つの支川は、北岸支川のうち横綱級の水害があったところであると言われていましたが、床固工が大きな効果を発揮し、それまで県下の災害額の1割を占めていた曾江谷筋の災害は減り、約50haの荒地が生産地に変貌しました。また、日開谷川筋においても約30haが生産地に生まれ変わったとされています。

吉野川北岸支川は、デ・レーケ(写真2)が踏査をして、財政力が乏しかったにもかかわらず、明治政府が直轄砂防事業を興し、



写真1.赤木正雄氏
(立山砂防事務所HPより)



写真2.明治6年頃のデ・レーケ
『デ・レーケとその業績』
(国土交通省中部地方整備局木曾川下流工事事務所)より

のちに「日本砂防の父」とも呼ばれる赤木正雄が若き情熱を注いで砂防事業を行いました。現在から見てもその重要性は大きく、その先見性と確実な歴史の歩みを感じることができます。



写真3-1.吉野川と曾江谷川の合流点付近
(大正4年頃撮影 赤木,1963)



写真3-2.曾江谷川の床固工
(曾江谷橋下流)

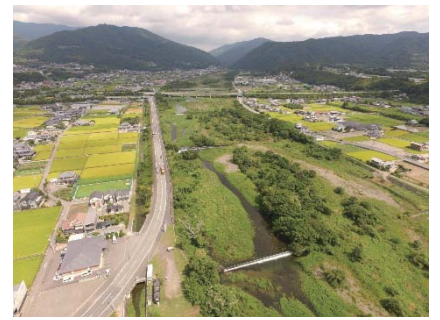


写真3-3.曾江谷川の床固工群を
下流から望む



写真4.日開谷川の床固工群を
下流から望む

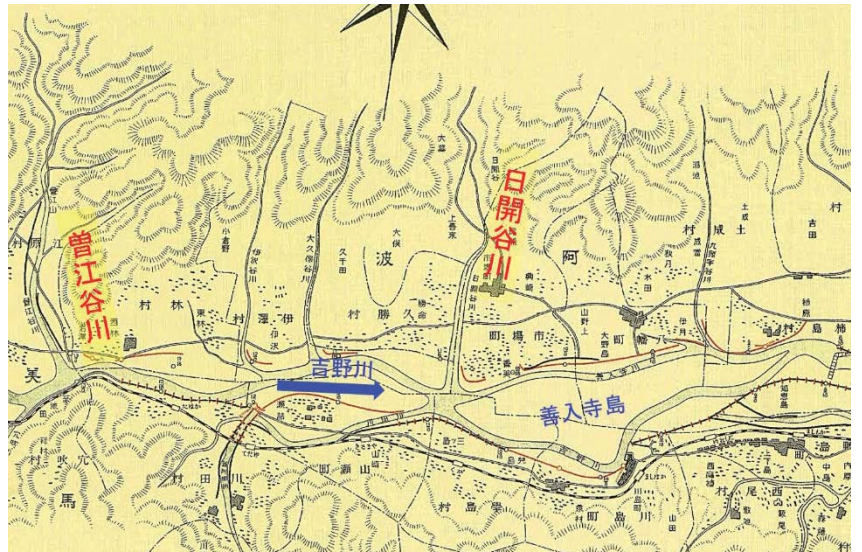


図1.吉野川改修竣工平面図(大正15年配付資料)に筆者加筆

大正時代に入り、大正元年の水災がひびき、県営の溪流も北岸の黒河原谷、宮川内谷、泉谷、盗人谷等の溪流が加わり8溪流に増え、荒廃溪流に対して山腹工、護岸工等の整備が進められました。また、大正11年からは谷止工及び堰堤工を中心とした溪流工事への道が開かれました。

【参考：吉野川北岸支川】

三好市池田から下流の北岸支川(阿讃山地)は、吉野川に沿って走る中央構造線の北側、「和泉砂岩層」であるため、崩壊が活発で多量の土砂を流出していわゆる天井川として吉野川に落ち込んでいます。吉野川の本格的な河川改修に先立ち、明治17年に調査に訪れたデ・レーケにも、下流に与えている多数の障害は、全て北岸支川から流れる砂礫にあると言わしめました。

明治・大正時代に吉野川流域で、国や県により砂防事業が施工された地域は、荒廃した北岸の支川流域でした。このことから、支川周辺や吉野川下流の水害を軽減するため、北岸支川の流出土砂の抑制を如何に重要視していたかが理解できます。

2. 日本砂防の父、赤木正雄 ～若き頃の徳島時代～

赤木正雄氏は、大正4年に吉野川砂防工事事務所の主任代理として赴任し、大正9年までの5年間、曾江谷川、日開谷川の吉野川砂防工事に従事しました。日本において砂防の重要さをいち早く説いた人物であり、まさに、砂防一路の人生で「日本砂防の父」や「砂防の神様」と言われる人物なのです。

赤木氏は、大正3年、東京帝国大学農科大学林学科を卒業し、新渡戸稲造の訓示を聞いて決断した「治水・砂防」を生涯の道とするため、内務省の沖野忠雄技監の採用面接試験を受けました。その際、沖野技監は、「内務省には135人の技師がいる。しかし日本の河川は水源を治めない限り治まらないが、土木卒業の学士は皆山に入ることを嫌うので、誰か一人砂防専門の技師を採用しようと考えている。山に木を植えることを教わったか」と問われた赤木氏は「本多静六博士から3年教わりました」と答えると、沖野技監は「君を先ず採用することにする」と採用が決定され、ただちに内務省に入省しました。それから、淀川の田上砂防を経て、吉野川の砂防に従事することになったのです。

当時の曾江谷川や日開谷川は、ともに崩壊土砂の押し出しで天井河原となり、洪水氾濫が頻発する川幅70～300間(130～540m)の河川でした。この河川に高さ6～9尺(1.8～2.7m)、長さ100間(180m)内外の空石床固堰堤を階段状に造りましたが、その頃の設計は空積^{からづみ}であり、コンクリートは採用されていませんでした。それは、吉野川百年史において、デ・レーケの指導の堰堤が空積であったためではないかと記されています。

赤木氏は、この砂防堰堤に種々気づいた点があり、設計の訂正を求めましたが、上司である主任の許可が得られませんでした。その後、堰堤は完成しましたが洪水毎に破損するという状態になったため、これを視察に来られた原田内務技監に対して、赤木氏は、たとえ自分の意思に反して、ただ主任の命令によって構築した堰堤とはいえ、技術者としての自責に堪えず、堰堤破損の責任をとるため辞職願を出したのです。原田技監は「沖野さんが君を内務省の砂防のために採用されたのは、将来我が国の砂防を見てもらうためなのだ。いま曾江谷の工費を合わせても15万円にすぎない。しかも、一部破損しても残った部分で土砂を支えているのではないか。それらを研究すれば15万円が流れても今後の砂防のため尊い研究資料となるのだ。退職などとは心得違いだ」と諭されました。

その後、大正9年に徳島を離れ、大阪土木出張所勤務となりますが、大正12年には岐阜県揖斐川水源の砂防を視察したのち、砂防工学研究のため独力自費でオーストリアに渡欧しました。オーストリア国立水理実験所で実験を行い、大学や現場で砂防の研鑽を続けました。大正14年内務省に復帰し我が国の砂防事業を所掌するとともに、常願寺川砂防工事を開始し初代所長も兼務しました。昭和7～9年、世界恐慌の中で農村匡救事業により砂防事業を飛躍的に発展させたことにより全国の府県で砂防事業が実施されることになりました。その後も全国治水砂防協会の設立、砂防会館の建設に携わり、昭和21年に貴族院議員、昭和23年には建設政務次官となり天皇陛下に「砂防工事と治水」をご進講されるなど多くの功績を残されました。まさに砂防一路の人生で「日本砂防の父」と言われる所以だと思います。

昭和47年9月24日没。昭和46年に文化勲章受章、昭和47年に勲一等瑞宝章、従三位

今回は、再開された砂防事業や、それに深く関わった赤木正雄氏について探訪しました。

明治・大正時代における吉野川北岸支川(阿讃山地)の砂防事業の重要性を理解していただけたでしょうか。また、赤木氏に関しては、個人的な意見ですが、内務省の採用を決定したのが吉野川高水防御計画意見書を策定した沖野忠雄博士であることに親しみを感じました。なお、後に「日本砂防の父」とも言われる赤木氏の徳島・吉野川砂防時代の苦い経験は非常に共感でき心に響きます。私たち世代の技術者も赤木氏の向上心、責任感、倫理観など高い志を見習いたいものです。



大規模災害に備え、**演習**を実施しました！

～令和4年度 大規模地震・津波を想定した緊急対策シミュレーション～

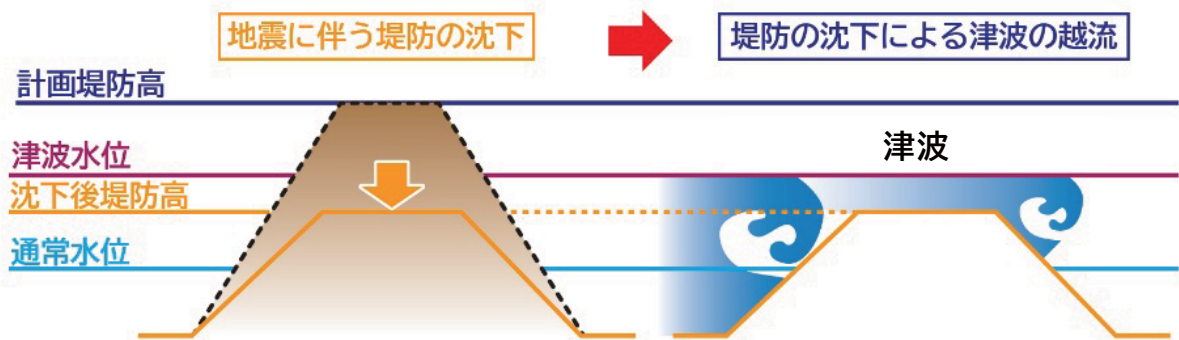
「堤防決壊」については、日ごろから問題意識を持つとともに、万全の準備を図るための取組が重要となっていることから、平成19年度より「堤防決壊時における緊急対策シミュレーション」を実施し、課題や今後の対応等について意見交換を実施しています。

徳島河川国道事務所では、6月(Ourよしのがわ Vol.49参照)に続き、令和4年10月4日(火)に「東南海・南海地震による堤防決壊を想定した緊急対策シミュレーション」を実施し、下記の想定に基づき、**堤防の被災状況、津波浸水の排水状況、潮位、道路啓開の状況等を考慮しながら、①緊急復旧(堤防の構造や工法)の検討、②復旧に必要な資機材や運搬路の確保について、議論しました。**

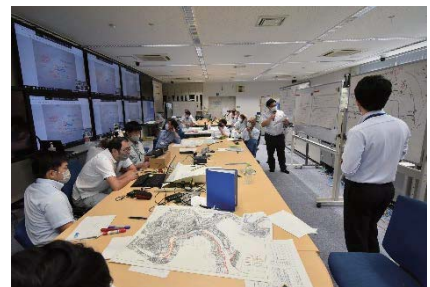
シミュレーションの概要

想定

東南海・南海地震(マグニチュード 8.6 規模)が発生し津波が襲来。広域で地盤沈下が発生。液状化により今切川の複数の箇所では堤防が沈下し、津波が越波。さらに2週間後には台風が襲来すると予測される。



図：地震に伴う堤防の沈下及び津波の越波イメージ



写真：復旧工法等の検討の様子

発災直後の混乱の中、どれだけの資器材が調達できるかを把握し、どこまで復旧するのか等について判断するためには、平常時の施工状況を把握していることが重要です。

「平常時にできないことは発災後にはできない」という意識を持ち、日ごろから可能な限り現場に行き、現場感覚を身につけることの重要性を参加者で確認して演習を終えました。

旧吉野川、今切川での耐震対策については、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況」(P10～)でご紹介しています。

国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

強くて、しなやかなニッポンへ

防災・減災、国土強靱化のための
5か年加速化対策等の工事進捗状況

～吉野川水系吉野川～

吉野川水系における防災・減災、国土強靱化の緊急対策

吉野川水系を管轄する徳島河川国道事務所においては、時々の自然災害等の状況に即した機動的・弾力的な対応を行うための「頻発する風水害への対応」や「切迫する大規模地震等への対応」として「5か年加速化対策」等の工事を以下の地区で進めています。

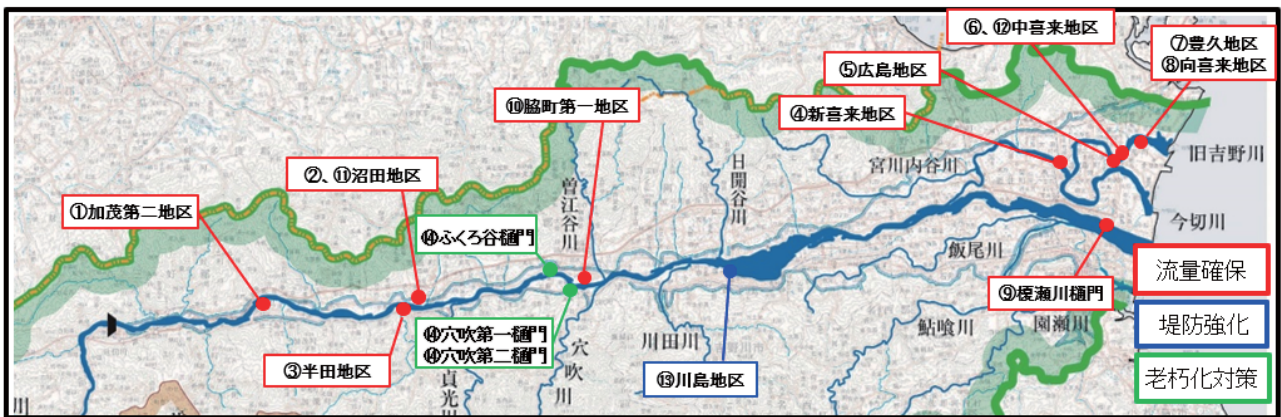


図1.吉野川水系における防災・減災、国土強靱化の緊急対策地区（※現時点で事業着手している箇所を表示）

事業目標及び状況（令和4年10月末現在）

■流量確保（堤防整備、地震・津波対策、樋門新設・改築、河道掘削、樹木伐採）

- ①堤防整備
 - ・対策必要箇所22箇所のうち、令和7年度までに14箇所着手（予定）
 - ・10月末時点で7箇所着手し、現地調査、用地買収、築堤工事、樋門工事を実施中（この内、勝命箇所です工事完了）
- ②地震・津波対策
 - ・対策必要箇所4箇所（旧吉野川河口堰下流）において、2箇所（豊久地区、向喜来地区）で耐震対策工事を実施中
 - ・令和3年12月末で中瀬地区、令和4年1月末で矢倉地区が工事完了
- ③樋門新設・改築（耐震）
 - ・対策必要箇所5箇所のうち、令和7年度までに4箇所着手（予定）
 - ・10月末時点で1箇所着手し、榎瀬川樋門では仮設撤去工、築堤を実施中
- ④河道掘削
 - ・対策必要箇所10箇所のうち、令和7年度までに3箇所着手
 - ・10月末時点で3箇所着手し、沼田地区で河道掘削工事を実施中
 - ※掘削範囲の樹木伐採も含む

■堤防強化（堤防拡幅、漏水・侵食対策、粘り強い堤防策）

- ①漏水対策
 - ・対策必要箇所2箇所（川島地区、西林地区）で漏水対策工事完了
- ②侵食対策
 - ・対策必要箇所5箇所のうち、令和7年度までに1箇所着手
 - ・10月末時点で1箇所着手済み

■老朽化対策

- ①無動力化
 - ・新規実施箇所3樋門について、現在工場ですゲート製作中（令和4年度新規箇所：穴吹第一樋門・穴吹第二樋門・ふくろ谷樋門）

吉野川水系における工事進捗状況



前ページで紹介した対象地区のうち、令和4年10月末時点での主な地区の進捗状況は以下の通りです。(丸数字の番号は、図1(前ページ)の番号に対応)

 流量確保
 堤防強化
 老朽化対策

●主な地区の施工状況(令和4年10月末時点)

| No | 地区名 | 所在地 | 整備内容 | 事業進捗 |
|----|--------|---------|---------|---|
| ① | 加茂第二地区 | 東みよし町 | 堤防整備 | 工事実施中(事業延長約4.6kmのうち約50%進捗) |
| ⑤ | 広島地区 | 松茂町 | 堤防整備 | 工事実施中(事業延長約2.0kmのうち約8%進捗) |
| ⑧ | 向喜来地区 | 鳴門市、松茂町 | 地震・津波対策 | 工事実施中 |
| ⑨ | 榎瀬川樋門 | 徳島市 | 樋門改築 | 工事実施中(約93%進捗) |
| ⑪ | 沼田地区 | 美馬市 | 河道掘削 | 工事実施中(全体掘削量約728千m ³ のうち約18%進捗) |
| ⑭ | 樋門無動力化 | 三好市、美馬市 | 老朽化対策 | 工事実施中(工場製作中3樋門) |

▶▶堤防が出来るまで



▶▶地震・津波対策が出来るまで



▶堤防整備の進捗状況

①加茂第二地区：用地買収、築堤、樋門工事／約50%の進捗



着手前



R4.10月末時点

⑤広島地区：築堤、樋門工事／約8%の進捗



着手前



R4.10月末時点

▶地震・津波対策における各地区の施工状況



⑧向喜来地区：耐震対策工事／仮設撤去



着手前



R4.10月末時点

▶樋門改築工事の進捗状況

⑨榎瀬川樋門：仮設撤去工、築堤／約93%の進捗



着手前



R4.10 月末時点

▶河道掘削工事の進捗状況

⑪沼田地区：河道掘削工事／約18%の進捗



着手前



R4.10 月末時点

▶老朽化対策の進捗状況

⑭穴吹第二樋門、穴吹第一樋門、ふくろ谷樋門：樋門の無動力化工事／ゲート製作中



着手前（穴吹第二樋門）



着手前（ふくろ谷樋門）



「Our よしのがわ」では、今後も定期的に国土強靱化に関する吉野川水系の工事進捗状況を発信していく予定です。また、徳島河川国道事務所のウェブページでは、全箇所 の進捗状況を毎月更新しています。詳細はこちらでご覧いただくことができます。

徳島河川国道事務所ウェブページ

防災・減災国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/yoshinoriver/kokudokyoujinka/kokudo.html>



河川パトロールの仕事

【吉野川鴨島出張所】

今回は河川パトロールがテーマです。

国土交通省徳島河川国道事務所では地域の皆様の安心・安全を目的として吉野川の堤防や河川敷等を日々パトロールしています。

パトロールの内容としては堤防・護岸等の河川管理施設の点検や不法投棄及び不法占用による違法行為の確認等を行っています。

堤防・護岸等の河川管理施設を対象とした点検は台風期前点検で6月頃～8月頃、出水期後点検は12月頃～1月頃を目途に年2回実施しています。そして、今回の現場だよりを担当する吉野川鴨島出張所のパトロール範囲は吉野川右岸（南岸）の河口～岩津橋付近です。

今日もN巡視員とF運転員が張り切って三菱RV R排気量 1,800cc でパトロールに出かけていきます。



向かって左がF運転員、右がN巡視員

今日も張り切って出張所を出発だ！



まずは堤防点検で陥没穴を発見しました。陥没穴は放置すると洪水の時に堤防決壊を助長する恐れがあるので、早急に工事により土で埋めて補修します。



おっ、堤防の陥没を発見！



速やかに工事で補修します

続いて河川敷で心ない人が捨てた不法投棄物を見ました。

河川敷のゴミは景観を損なうばかりでなく、洪水で川や海に流れてマイクロプラスチックになると魚が食べ、ひいてはその魚を人間が食べるので人の健康を害する恐れがあります。

そういった事もあるので、ゴミは絶対に捨ててはいけません。

不法投棄や不法占用等の違法行為が後を絶たないので適宜、夜間や休日もパトロールしています。



続いて不法投棄も発見



夜間パトロールもします

また今年は渇水が発生したので、定期的に吉野川の水を利用している取水施設等の水位や河川の流況も河川パトロールで確認しています。夏場の調査は暑いので、熱中症にならないよう巡視員は水分補給が重要です。【巡視員のお仕事は本当に大変です！！】



渇水時における取水施設の水位調査



渇水時の西条大橋から下流を望む

ちなみに、堤防上の道路に虎模様の杭が立っているのをよく見るとおもいます。これは規制杭といって河川管理用の通路に立ててあり、一般車両の通行を規制しています。



虎模様の規制杭（河川管理用の通路）



その横に一般車両の通行規制標識

「指定緊急避難場所」周知徹底の取組

「指定緊急避難場所」周知徹底の取組とは

吉野川流域治水協議会、吉野川中流・下流大規模氾濫に関する減災対策協議会では、令和3年度、吉野川流域の浸水想定区域の居住者を対象に「吉野川洪水意識調査」を実施しました。その結果、災害時に適切な指定緊急避難場所を目指すことができる人が流域全体で3割程度にとどまっている可能性が示唆されました。

実際の災害では、適切な避難により被害が軽減された例も多く、本取組は、吉野川流域の住民の方々に、いざという時に命を守るための指定緊急避難場所を認知していただく事を目的として実施するものです。具体的には、指定緊急避難場所の役割を知ってもらう、自分たちが住んでいる地域の指定緊急避難場所を知ってもらうために、パネルの展示、実際に指定緊急避難場所に足を運んでもらうためのキャンペーン等を実施します。



「指定緊急避難場所」周知徹底のための活動

● 「指定緊急避難場所」周知徹底キャンペーン in 上板町を実施しました

住民の方々の防災意識を高めるための様々な取組が進められているところですが、ハザードマップの存在については認識しているものの、その内容を把握している人の割合は未だに多くないという現状があります。

このような現状に対し、レクリエーションとして足を運んでもらうことで、いざという時にどこに逃げればいいのかを自然な形で知ってもらうことを目的として、令和4年11月3日（木・祝）に、上板町にお住いの方、または上板町内にお勤めの方を対象として、実際に指定緊急避難場所に足を運んでもらうためのイベントを実施しました。

イベントの内容は、上板町内にある13箇所の指定緊急避難場所のうち、12箇所の指定緊急避難場所のいずれかで「指定緊急避難場所カード」を受け取ると、同日に開催していた「かみいた防災フェスタ2022」会場である技の館で、日用品や食料品などのプレゼントがもらえるというものでした。当日は晴天にも恵まれ、10時～15時までの間に、各指定緊急避難場所でカードを受け取った約500名の方々が技の館に来てくださいました。



指定緊急避難場所での
カード配布の様子



「かみいた防災フェスタ2022」
会場でのアンケート実施の様子



「かみいた防災フェスタ2022」
会場でのプレゼント配布の様子

上板町企画防災課・担当者のコメント

指定緊急避難場所の周知に特化した本キャンペーンは盛況のうちに終了いたしました。ご参加いただいた皆さまをはじめ、協賛をいただいた企業・団体様に対しまして、心よりお礼申し上げます。指定緊急避難場所認知度向上のための取り組みは、今後もあらゆる機会を通じ実施してまいります。

●「指定緊急避難場所」に関するパネル展示

災害時に命を守るための避難先である「指定緊急避難場所」について流域住民の方々に知っていただく事を目的として、小さなお子様にも読んでいただける内容のパネルを作成し、県・市町村の防災パネル展などで展示しました。

1. 「緊急避難場所」と「避難所」のちがいについて学ぼう!

「緊急避難場所」…まず命を守るために逃げる場所

災害がおこったときに、危険から逃れるために、**一時的に避難する場所のこと。**高い建物や大きな公園、緑地など、屋外の広いスペースが指定されていることが多い。



※ 命を守るために緊急避難場所を知っておくことはとても重要です!

「避難所」…家で生活できない場合に滞在する場所

災害により家で生活できない人を一時的に滞在させる施設のこと。学校や公民館などの公共施設が利用されることが多く、食料や水の備蓄などがある。



※ 「緊急避難場所」と「避難所」の2つを兼ねている施設もあります。



今いる場所が危ないと感じたらすぐに避難を開始

近くの「緊急避難場所」へ避難し安全を確保

自宅で生活できない場合には「避難所」を利用

2. 災害によって「緊急避難場所」がちがうことを学ぼう!

災害には色々な種類があり、災害の種類によって、指定されている緊急避難場所がちがうことがあります。災害対策基本法施行令では、災害の種類を以下の7つに分類しています。

- 洪水
- 崖崩れ、土石流及び地滑り
- 高潮
- 地震
- 津波
- 大規模な火事
- 内閣府令で定める異常な現象（火山の噴火など）

緊急避難場所ごとに、どの災害に対応しているのかが下の図のような形で表されています。



事前に近くの緊急避難場所がどの災害に対応しているのかを調べておこうね。

津波から身を守るための緊急避難場所には「津波避難場所」「津波避難ビル」のマークが表示されている所もあるよ。



【避難場所図記号】
出典：内閣府ウェブサイト「平成30年版 防災白書」図表2-10-2 避難場所等の図記号の標準化の取組」の図を編集
吉野川中流・下流大規模氾濫に関する被災対策協議会

▲「指定緊急避難場所」に関するパネル



◀美馬市立図書館

「親子で学べる防災パネル展」

令和4年7月28日(木)～9月4日(日)



あすたむらんど徳島
令和4年10月22日(日)



とくしま防災フェスタ2022
令和4年10月22日(日)

不法投棄等の撲滅に向けて 夜間パトロールを実施しました



【河川占用調整課】

吉野川河川敷等の夜間パトロールを令和4年10月20日(木)に徳島県と合同で実施しました。
夜間パトロールは、不法投棄、野外焼却の取り締まりを目的に平成9年より実施しています。

不法投棄対策は、これまで廃棄物処理法の規制強化をはじめ、国、都道府県、市町村において監視活動の強化や美化活動の推進等を行っていますが、いまだ悪質な不法行為がなくなる状況にありません。

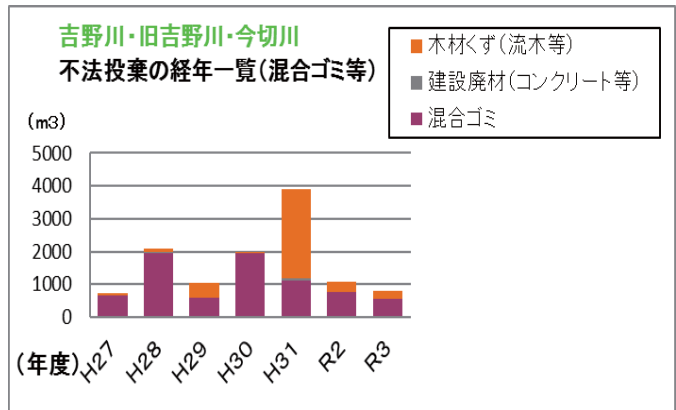
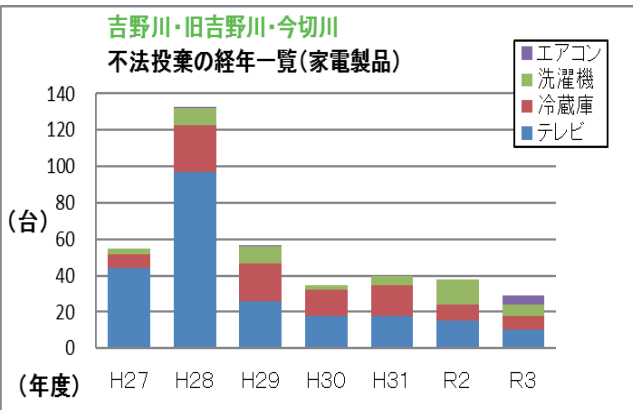
*** 実施結果 ***

- ・実施場所：吉野川、旧吉野川、今切川、県管理箇所
- ・実施者：国土交通省、徳島県
(パトロール体制 28名、9台)
- ・実施結果：県管理箇所で、野焼きが1箇所発見されましたが、農業目的で軽微であったため、注意に留めています。

不法投棄の経年一覧

| 実施年度 | 不法投棄 | 野外焼却 |
|------|------|------|
| 令和4年 | — | — |
| 令和3年 | 1件 | — |
| 令和2年 | — | — |

今年度と過年度の対比でも分かるように以前に比べれば、不法投棄や野焼き等の不法行為は減少しています。これは、絶え間ない管理作業の賜物です。
今後も関係行政機関が連携し、不法投棄の撲滅に向けた事業の実施に取り組んでいきます。



Our よしのがわ Vol.50 発刊記念特別企画第1弾！ クイズで振り返る「Our よしのがわ」解答 & 解説



前号 (Vol.50) で出題した過去の「Our よしのがわ」に関するクイズ、皆さんお楽しみいただけましたか？今回はいよいよ解答と解説をお届けします。

| | |
|-----|--|
| 第1問 | Vol.2「吉野川歴史探訪」より出題 |
| 問題 | 創刊号からの人気連載「吉野川歴史探訪」の筆者「別宮川三郎」は、実はペンネームなのですが、そのペンネームの由来となっている「別宮川」とは現在の何川でしょう？ |
| 解答 | 吉野川 |
| 解説 | 現在、私たちが「吉野川」と呼んでいる川はかつて「別宮川（べっくがわ）」と呼ばれていました。別宮川には、洪水を防ぐような大きな堤防はなく、毎年のように発生する洪水は当時の吉野川（現在の旧吉野川）では防ぎきれず、別宮川へ溢れ、川沿いの土地や集落に深刻な浸水被害を及ぼしていました。このため、別宮川を吉野川の放水路として洪水を安全に流すため、別宮川沿いに大堤防を築くとともに、川の土砂を掘削、浚渫したのです（Vol.2より引用） 「吉野川歴史探訪」には、吉野川の成り立ちや治水に関する歴史が詳しく掲載されています。この機会にバックナンバーもぜひご一読ください。 |

| | |
|-----|--|
| 第2問 | Vol.5「吉野川の歴史遺産①」より出題 |
| 問題 | 右の写真は、吉野川左岸、河口から約15kmの板野郡上板町にある第十樋門の横に立つ建物で、河川の水位を測る役割を担っています。この建物の名前「〇〇小屋」の「〇〇」に入る言葉は何でしょう？ |
| 解答 | 水尺（すいしゃく） |
| 解説 | 歴史を感じる佇まいの第十樋門は、大正12年に吉野川と旧吉野川の分派点に建設された樋門で、通常は門が解放され河川維持用水、水道用水、工業用水、農業水の供給を行い、吉野川が洪水になると門を閉め、旧吉野川に洪水が流れ込むのを防ぐ働きをしています。水尺小屋はその第十樋門の脇にあり、現在も第十樋門と共に現役で水位を測っています。 |



| | |
|-----|--|
| 第3問 | Vol.9「現場だより」より出題 |
| 問題 | 東みよし町の無堤地区の洪水被害防止を目的とした「加茂第二堤防事業」等で、工事の支障となるため竹が伐採されましたが、その後有効活用されました。伐採された竹はどのように活用されたでしょう？ |
| 解答 | 竹チップとして無償配布し、田畑の肥料などに活用してもらった |
| 解説 | 竹チップは作物の堆肥としてよいと、大勢の地元の方が利用してくれたそうです。 |




| | |
|-----|--|
| 第4問 | Vol.14「不法投棄の撲滅にご協力ください！！」より出題 |
| 問題 | 吉野川や旧吉野川における不法投棄の現状を知っていたとき、不法投棄を抑制するための活動として、徳島河川国道事務所ウェブページで公開している地図の名前は何でしょう？ |
| 解答 | 「吉野川ゴミマップ」 |
| 解説 | 吉野川ゴミマップのページでは、河川巡視活動で見つけたゴミの写真や不法投棄の経年一覧をご覧いただけるようになっています。 http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/river/yoriyoi/yoriyoikawa/gomimap/index.html |





| | |
|-----|---|
| 第5問 | Vol.16「吉野川で遊ぼう！！」より出題 |
| 問題 | ラフティングで有名な大歩危峡には、変わった名前の岩がたくさんあります。次の3つのうち、実際にある岩の名前はどれでしょう？ ①カエル岩 ②オタマジャクシ岩 ③デ・レイケ岩 |
| 解答 | ①カエル岩 |
| 解説 | 写真の赤丸にあるのがカエル岩です。確かに横向きのカエルにそっくりですね。 |



| | |
|-----|--|
| 第6問 | Vol.22「お散歩紀行 INTERVIEW」より出題 |
| 問題 | 吉野川の上流に位置する高知県大川村で生産されている「はちきん地鶏」の名前にも使われている高知県の方言「はちきん」の意味は何でしょう？ |
| 解答 | 土佐の女性の元気さ、行動力、働き者といった、はつらつさを表現する方言。 |
| 解説 | これ以外にも、重さが「八斤」「土佐はチキン」などさまざまな「ハチ」に縁がある事から命名されたそうです。 |

| | | |
|-----|---|---|
| 第7問 | Vol.25「吉野川を釣る！」より出題 |  |
| 問題 | きれいな川に棲むカワゲラですが、Vol.25のとある連載では、このカワゲラを捕まえてあることに利用しました。それは何でしょう？ | |
| 解答 | 川で釣りをするための餌として利用された。 | |

| | | |
|-----|--|---|
| 第8問 | Vol.30「吉野川講座」より出題 |  |
| 問題 | 防災に役立つロープワークにはいろいろな結び方がありますが、その中でも“結びの王様”と呼ばれ、幅広い用途に使われているのは何結びでしょう？ | |
| 解答 | もやい結び | |

| | | |
|-----|---|---|
| 第9問 | Vol.34「吉野川講座」より出題 |  |
| 問題 | 現在のように橋梁がなかった時代には、「渡し <small>わたしぶね</small> （渡船）」が人々や物資の輸送の役割を担っていました。大正初期には鉄道が開通したため衰退しましたが、松茂町には現在も現役で運行している県内唯一の渡しがあります。その名前は何でしょう？ | |
| 解答 | 長原渡し | |
| 解説 | 徳島市川内町米津と板野郡松茂町長原を結ぶ今切川の渡し船として、現在も運行している唯一の渡船です。 | |

| | |
|--------|---|
| 第 10 問 | Vol.42 「吉野川を釣る！」より出題 |
| 問題 | <p>Vol.42 の「吉野川を釣る！」で釣り人 N 氏が干潟で発見した大きなクレーターの正体は次のうちどれでしょう？</p> <p>①ヒトデの巣 ②エイが休憩した跡 ③フグが移動した跡</p> |
| 解答 | ②エイが休憩した跡 |
| 解説 | <p>この回では、吉野川河口で釣りをしていた釣り人 N 氏が浅瀬で食事をしていると思われるエイを発見しました。エイは尾に大きな毒針を持っているため、近くにいっても決して触らないようにしてくださいね！</p> |



「Our よしのがわ」バックナンバーは、
徳島河川国道事務所ウェブページでご覧いただけます！

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/kouhoushi/kouhoushi.html>



表紙で振り返る「Our よしのがわ」表紙投票

現在、徳島河川国道事務所正面玄関にて、表紙で振り返る「Our よしのがわ」として過去の表紙の展示と、特設ページで好きな表紙の投票を受け付けています。

スマートフォンから簡単に投票できますので、お気軽にご参加ください。

「Our よしのがわ 表紙投票」特設ページ

<https://forms.gle/rdddvwUMcUp5iFMRA>

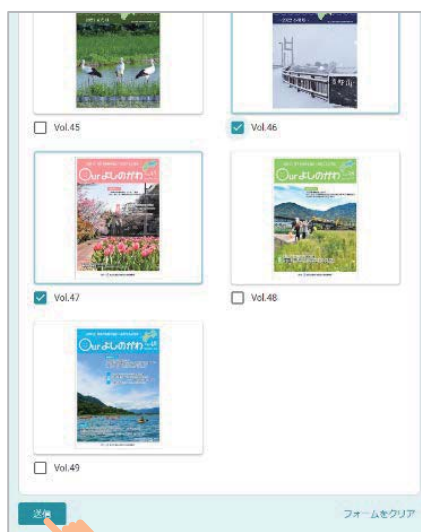
にアクセスして、下記手順で投票してください。



◀ 「Our よしのがわ
表紙投票」
特設ページ QR コード



①好きな表紙の画像または発行号
前の口をクリックします



②「送信」ボタンを押して
解答を送信します

投票の期間は令和4年
12月20日(火)まで、
結果の発表は「Our よし
のがわ」1月発刊号
(Vol.52)を予定してい
ます。お楽しみに！



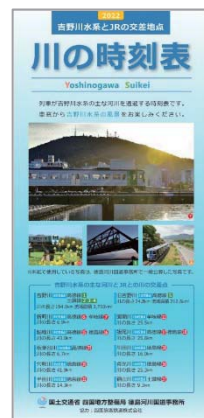
「花植え会」開催

令和4年9月17日（土）に第37回水と緑のフェスティバル とくしま まちなか花ロードproject「花植え会」が開催されました。台風接近中というあいにくの天気でしたが、今回も多くボランティアが参加して徳島駅周辺道路に3万5千株のマリーゴールドを植えました。



「川の時刻表」2022版完成

「川の時刻表」は、列車が川を通過する時刻について、川を駅に見立て時刻表としてまとめたものです。この時刻表を手に、四季折々に様変わりする吉野川水系と列車が一つになる瞬間や車窓から眺める「水都徳島」の風景をお楽しみいただければと思います。



「川の時刻表」2022版は、徳島河川国道事務所ウェブサイトまたは、JRの主要駅（徳島駅、佐古駅、勝瑞駅、板野駅、鳴門駅、石井駅、鴨島駅、穴吹駅、阿波池田駅、南小松島駅）で配布しています。

徳島河川国道事務所
「川の時刻表」ウェブサイト



「ファミリーハゼ釣り大会」開催

令和4年10月2日（日）に第40回「ファミリーハゼ釣り大会」が開催され、釣り好きの親子連れら240名がハゼ釣りを楽しみました。

また、キッチンカーの出店や周辺のゴミ拾い、海上保安部による安全講習、とくしま自然観察会による河口干潟に関する寸劇などもあり、遊んで学べる1日となりました。

長年にわたり親しまれてきた「ファミリーハゼ釣り大会」ですが、現行の形での開催は今年で最後となり、来年からは、もっと多様な形で川に親しめるイベントとしてリニューアルするそうです。



「四国三郎ってどんな川」写真展

吉野川、旧吉野川、今切川には、治水・利水に関する構造物が数多く存在します。これら構造物を通して、吉野川の歴史や現状を紹介する冊子「四国三郎ってどんな川」（発行：吉野川渡し研究会）に関する写真展が美馬市立図書館、県立21世紀館で開催されました。

12月には吉野川市で開催される予定ですので、興味のある方は足をお運びください。

吉野川市での開催予定

- 【開催場所】
吉野川市文化研修センター
- 【開催日】
12月2日（金）～4日（日）
- 【開催時間】
2日（金）・3日（土）9時～18時
4日（日）9時～15時



吉野川を遊び場にして楽しく過ごしている人たちによる、
吉野川の遊び方をご紹介します！



～吉野川河口で
釣りに挑戦しました！～

初めての釣りに意気込む挑戦者たち

こんにちは、生魚苦手系のKです。
生まれてこの方36年、釣りに興味
をもたなかった人間がどこまで沿
にハマるのかを検証すべく、今回
は、この雄大な吉野川を舞台に、ド
素人の釣り人がお魚たちに弄ばれ
る有様を皆さまに楽しくお伝えし
ます。

釣りを生きがいにされている方からすれば怒られる話かもしれませんが、そもそもなぜ釣りに興味を持つことが出来なかったかという、①魚より肉派、②オキアミなどがくさい、③待ち時間が退屈、などの偏見があったためです。この偏見を覆し、**釣ってこんなに楽しいものなんだ！**を検証すべく、10月初旬、釣りを得意とするNさんを筆頭に、釣り初心者の4人を引き連れて吉野川河口へと足を運びました。今回のターゲットは**釣り初心者でも比較的簡単に釣ることが出来ると言われていたハゼ**です。果たして、大漁となったのでしょうか？そもそも、釣ることが出来たのでしょうか？それでは、当日の釣果結果をお話させていただきます。

皆さんはハゼってご存知ですか？右の写真に掲載しているのがハゼです。とっても愛着のわく可愛らしいお顔をしていますね^^

通常、ハゼと言えばマハゼ（真鯿）のことを言い、スズキの仲間だそうです。また、ハゼは大きさによって呼び方が変わるそうで、夏に釣れる8センチ位までを「デキハゼ」、秋に釣れる15センチ程度のハゼを「落ちハゼ」、小さなハゼに混ざる1年越えの大きなハゼを「ヒネハゼ」と呼ぶそうです。へえ～、ハゼはハゼだと思ってた・・・。

それでは早速釣りを始めましょう！・・・と言っても釣り竿の持ち方がよく分からない。

ルアーの糸ってどうすれば緩むの？投げ方はどう投げるの？たくさんのクエスチョンが脳内を駆け巡っているその最中、「**Kさん、エサがついてないですよ**」と、**Nさんが取り出したのはエサとなるゴカイ**。その**ゴカイをポーカーフェイスで次々に指で引きちぎる光景を目の当たりにし、悲鳴を上げる一同**。いい歳したおっさんたちがギャーギャー騒いでいます(笑)

「いやあ、もうこの時点で釣りは無理です、ハイ・・・。」と、開始早々Uさんのテンションだだ下がり気味です。



本日のターゲット



Nさんによる熱血指導を受ける
Uさん

記念すべき人生初の一投目！見よう見まねで釣り竿を動かします。ハゼ自体大きな魚ではなく、僅かな引きの感触だけが頼りであるため、全神経を手に集中させます。

そうです、今こそ「**全集中の呼吸**」です。(ちょっと古い)しかしそんなのん気なことを言っているのも束の間、釣り竿に若干の重みを感じました。「**あー、根がかりしたかも**」と、意気消沈でリールを巻いていくKさん。



水面を見つめハゼを想う男たち

ん？しかし水中には銀色に輝く魚影が！しかもよく見ると魚影は2、2匹！？Σ

なんと初めてにして、ハゼとヒイラギの2匹を同時に釣り上げることが出来たのです！

先ほどの「ギャーギャー」とは一転、テンションが振り切れて「キャーキャー」と騒いでいます(笑)。「ちょっと動画撮ってもらっても良いですか！？」と、記念すべき瞬間を一生の思い出にしようと、カメラをUさんをお願いしたKさん。「**つ、釣って楽しい~かも★**」。早速釣りの虜になりつつある、最も影響されやすい人の代表に選ばれそうな勢いです。余談ですが、Uさんをお願いした動画は録画ボタンが押されておらず、**動画用に少しテンションを盛って喜んだ記録映像は悲しいかな保存されていませんでしたorz**

一番釣りに対して興味を持っていなかったUさんは、エサで釣るわけではなく、**腹部に引っ掛けてヒイラギを釣るという神業も披露**^^

今回はハゼを目標に釣りを体験してみましたが、ハゼやヒイラギのほか、フグやコトヒキなども釣ることができました。ゴカイはちぎってエサにしましたが、**贅沢にそのままの大きさのものをエサと使用した方が、エサの大きさに比例して大物を釣り上げることが出来るような気がしました。**



エサを使わずヒイラギを釣り上げたUさん

そろそろ今回のお話も終盤です。せっかく釣ったお魚たちの命は天ぷらにしてありがたく頂戴することにしました。「え、ハゼって食べれるの?」。大丈夫です、こちらは吉野川産ではありますが「**江戸前ハゼの天ぷら**」は昔から**絶品**と言われています。その言葉に安心し、いざ口に。

身は淡白で柔らかく、カリッと揚げたてでとても美味！！

これは・・・見事にハゼ釣りにハマってしまいました(笑)
吉野川のお魚さん、楽しい1日をありがとうございました！



本日の釣果で作った絶品天ぷら

Kさんありがとビバ！アソビバーは、普段素手で魚を捕まえていて釣をしたことがないから、Kさんと一緒に初めての釣りをしている気分で楽しく読ませてもらったビバ！

Kさんにアソビバーからお願いがあるビバ。今度釣りに挑戦する時は、ライフジャケットを着用して安全に楽しんでほしいのと、毒のある魚もいるのでしっかり種類を確認してから食べて欲しいビバ！！

「遊 VIVA！吉野川」管理者：アソビバー



アソビバー

徳島河川国道事務所のTwitter投稿記事から、「Ourよしのがわ」のイベントだよりなどで掲載しきれなかった記事をご紹介します！



10月24日

秋晴れのとある朝、吉野川橋の上に面白い形をした雲を見つけました。私は天狗が上を向いているように見えたのですが、皆さんはどんな風に見えますか？



10月4日

【地元小学生が #工事現場 を見学】

9月27日、阿南市立大野小学校6年生を含む22名のみなさんが、四国8の字ネットワークを形成する桑野道路の畑田川橋下部工事の見学に来てくれました。阿南市立大野小学校の関係者のみなさん、ありがとうございました！



徳島河川国道事務所の Twitter では、所管する「国道11号、28号、32号、55号、55号バイパス、55号日和佐道路、192号、192号バイパス道路」や「吉野川・旧吉野川・今切川」に係る情報等を発信しています。



https://twitter.com/mlit_tokushima

吉野川 Diary

～「コウノトリ・ツルでつながる阿波の国」こぼれ話～

未来ある子どもたちに歴史をつむぐ

脇町・うだつの町並み
ボランティアガイド連絡会 会長 塩田 正則さん

本編で紹介した脇町・うだつの町並みボランティアガイド連絡会には、現在ボランティアガイドが11人所属し、月に1度はスケジュール調整を兼ねた勉強会を開いています。連絡会のモットーは、「脇町の魅力を県外からの観光客だけでなく、県民に知っていただくこと」その言葉の通り、脇町の藍商人の販路を学び、藍について探究したり、うだつの町並みを歩き、家屋調査を行うなど、幅広いテーマで学んでいるそうです。今回の取材でガイドを担当いただいた塩田さんは、ボランティアガイドをはじめて10年。徳島県の文化財マイスター講座を受講していて、古い建物の造りや年代、細やかな細工などに造詣が深い方です。

このような努力の裏には、「この脇町の魅力、歴史を次代の子どもたちへ伝えていきたい」という強い思いがあります。連絡会では、見学にきた子どもたちの質問に丁寧に答え、資料を作り、送付しているそうです。全県下から見学にくる子どもたちに「うだつの歴史を知ること、自分の住む町に戻り、自分の町には、”こんな歴史があるんだなあ”と再発見してくれるきっかけになればうれしいです」と塩田さんは言います。ボランティアガイドの話を聞きながらめぐらうだつの町並みは、また違って見えるのではないのでしょうか。



塩田正則さん。藍色のTシャツがよくお似合い。令和元年度観光ボランティアガイド表彰を受けています。



写真は鳥ぶすま。鬼瓦が鳥の糞で汚れないようにするため、鳥が止まる場所として作られたもの。

脇町うだつの町並み
ボランティアガイドに関するページ



編集後記

9月末に迎えた念願の50号発刊の喜びもつかの間、10月中旬には「もっと楽しめて、もっと学べるOurよしのがわを作ろう！」という目標を掲げ、51号の制作が始まりました。新しい企画やこれまでの記事の見直し等、さまざまな意見を編集委員会でも出し合い、新たなスタートとして今回の誌面が完成しました。まだまだ試行錯誤の連続ですが、これからも引き続きOurよしのがわを応援してください！（あ）

[発刊]: 国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所

[編集]: Ourよしのがわ編集委員会

〒770-8554 徳島県徳島市上吉野町3-35

TEL(088)654-9175(直通)

FAX(088)654-9177

E-mail: skr-tokusa63@mlit.go.jp

ウェブページアドレス <http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>

(注記)QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



Ourよしのがわ編集委員会

- ・白川 豪人
- ・藤本 雅信
- ・林 昌宏
- ・佐藤 英人
- ・藤井 和志
- ・大江 茂徳
- ・松本 幸一
- ・宮地 正彦
- ・七條 稔暢
- ・安永 一夫